

懐徳堂は、享保9年(1724)、大坂町人によって創設された学問所です。江戸時代の後半約140年にわたって大坂学術の発展と商道德の育成に貢献しました。一時は、江戸の昌平坂学問所と並ぶ隆盛を誇ったと伝えられ、中井竹山・履軒兄弟をはじめ、富永仲基・山片蟠桃などのすぐれた学者を輩出しました。

明治2年(1869)に一旦閉校した懐徳堂は、大正5年(1916)に再建されます。この学校は、昭和20年(1945)の大坂大空襲によって焼失するまで、大阪の市民大学・文科大学として多くの市民に親しまれました。戦災を免れた3万6千点の資料は、昭和24年(1949)、大阪大学文学部の設立を機に、(財)懐徳堂記念会から阪大に寄贈され、以後は、大阪大学と記念会とが協力して各種事業を展開しています。

# WEB 懐徳堂

懐徳堂研究の総合サイト  
<http://kaitokudo.jp/>

21世紀を迎え、懐徳堂は新たな展開をとげようとしています。  
 文庫資料の総合調査、電子情報化事業の成果を、「WEB懐徳堂」として集大成したのです。  
 (このサイトは、大阪大学文学研究科の懐徳堂センターが運営しています。)

大阪文化と商道德の育成・大阪大学の源流・現代に生きる古典の力 / 懐徳堂  
 http://kaitokudo.jp

WEB 懐徳堂  
 WEB Kaitokudo

WEB懐徳堂とは 新着情報 懐徳堂入門 平成の懐徳堂 懐徳堂文庫データベース 懐徳堂文庫電子図書目録 懐徳堂と中国古典の

**「WEB懐徳堂とは」の見どころ**

**「懐徳堂学舎のデジタル再現」**  
 平成13年(2001)に、大阪大学創立70周年記念事業の一環として、コンピュータグラフィックスにより制作された「バーチャル懐徳堂」画面を見ることが出来ます。

**「懐徳堂入門」の見どころ**

**「懐徳堂物語」**  
 本サイトの中で唯一、動画と音声によって構成されています。懐徳堂誕生の物語をアニメーションで紹介し、懐徳堂入門の役割を果たします。

## 「懐徳堂文庫電子図書目録」

昭和51年(1976)に刊行された『懐徳堂文庫図書目録』を電子情報化したものです。この目録は、すでに絶版であるため、全ページを画像として提供するとともに、目録の研究や補遺作業を共同で推進し、その結果を逐次WEB上で追加していくこととしました。

## 「懐徳堂文庫データベース」

大阪大学創立70周年記念事業として、平成13年5月に公開されたデジタルコンテンツを、WEB版に再編したものです。懐徳堂の貴重な資料の画像と詳細な解説によって、学生から研究者まで興味深く閲覧することができます。

新編 懐徳堂  
 Revised Kaitokudo

懐徳堂入門

**「懐徳堂」の貴重資料**

江戸時代の旧懐徳堂が蔵していた書物は、明治2年(1869)の閉校によって一旦散逸する。しかし、懐徳堂の貴重資料は、中井竹山・履軒の曾孫に当たる中井木義典によって保管されていた。そして、明治末から大正初期にかけて、西村天彦(にしむらてんしゅう)の奔走によって財団法人懐徳堂記念会が設立され、懐徳堂学舎が复建されたことにより、中井家所蔵資料が記念会に寄贈され、また、記念会も資料の蒐集・復刊に努めた。

その後、昭和20年(1945)大坂大空襲の際、懐徳堂の建物は消失したが、書庫に収められていた資料は奇跡的に耐火を免れた。戦後、大阪大学に文学部が創設された際、それらの資料約3万6千点が懐徳堂記念会から一括して阪大に寄贈され、附録図書に収録されることとなった。

その後、懐徳堂記念会の資料蒐集活動や関係者からの寄贈などにより、点数を加えながら現在に至っている。その内容は、漢籍資料を中心に、和書、書札、書翰、絵巻、掛け軸、墨、扇子、印籠など多種多様な資料からなり、総点数は現在約4万7千点にのぼっている。

このデータベースでは、「懐徳堂文庫」で、この内の約100点を厳選して紹介するとともに、「懐徳堂研究」の内の「全文テキストデータ」では、2巻の全文テキストデータを公開する。

文化庁の「文化遺産オンライン (<http://bunka.nii.ac.jp/>)」が公開されました。これは、わが国のすぐれた文化遺産を総覧するために、インターネット上に設けられたポータルサイトです。

懐徳堂センターでは、文化庁からの委嘱により、この「文化遺産オンライン」への参加を目指して、懐徳堂文庫のデジタルアーカイブ化を進めています。



この事業では、これまで外部に公開されることのなかった大型の器物類(屏風・掛け軸など)や近年収集された新たな貴重資料を中心に、高精細なデジタル画像を蓄積し、データベースの拡充に努めます。



## 文化遺産オンラインとの連携

懐徳堂センターでは、この成果を「WEB懐徳堂」に反映させるとともに、「文化遺産オンライン」との連携を図ります。懐徳堂文庫の貴重資料が全国の文化遺産とともに、電子情報として広く公開されるのです。

WEB懐徳堂  
<http://kaitokudo.jp/>



文化庁「文化遺産オンライン」  
<http://bunka.nii.ac.jp/>

